

## 総説

## 呼吸器外科医が輝き続ける新時代へ

東 陽子

東邦大学外科学講座呼吸器外科学分野（大森）

**要約：**医師の働き方改革施行によって労働時間短縮が期待される一方、教育・研究活動との両立が難しくなる可能性がある。診療・研究・教育の質を維持しながら働き方改革を実践するには、医局・大学・学会レベルでの環境整備やマンパワーの確保が必要である。当科では、医局員がモチベーションを維持しながらキャリアを継続できるよう、①呼吸器外科医育成を常に意識した診療体制②メリハリのある生活とQOLの向上③マンパワーの確保の3項目を軸として環境整備を行っている。具体的な取り組みとして、手術経験数の早期集積による最短での専門医取得、朝カンファレンスの有効活用による17時以降のルーチンワーク廃止、土日・祝日オンコール体制の確立、医学生や研修医への啓蒙活動などが挙げられる。また、学会レベルでは、働き方改革を見据えた臨床工学技士や診療看護師とのタスクシェアの推進、若手医師活性化を目的とした部会設立などの取り組みが進んでいる。

東邦医学会誌 72(1)：52-53, 2025

KEY WORDS：chest surgeon, work style reform

## はじめに

医師の働き方改革施行によって労働時間短縮が期待される一方で、教育・研究活動との両立が難しくなる可能性がある。診療・研究・教育の質を維持しながら働き方改革を実践するには、医局・大学・学会レベルでの環境整備やマンパワーの確保が必要である。今回、外科/呼吸器外科分野における現状と当科での取り組みについて提示する。

## 外科分野の現状

男女共同参画時代が到来し、医学部新卒者における女性の割合は上昇を続けている。診療科選択においても性別による差異がなくなりつつあり、外科診療科を専門とする女性医師数は年々増加している。一方、新卒者の外科離れは深刻化しており、外科診療科の若手医師の割合は、女性と相反して男性が年々減少している<sup>1)</sup>。医師としての働き方に関する医学生の問題意識について、2004年に本学の医

学生に対して行われた男女共同参画に関するアンケート<sup>2)</sup>によると、「医師を定年まで続けたいが続けられないと思う」あるいは「続けたくない」と答えた割合が約20%を占めていた。続けられないと思う理由として、男女ともに上位を占めたのが「労働環境・条件」および「結婚・子育て」であった。また、仕事を続けるための工夫として、性別を問わず「診療科の選択・変更」が上位を占めており、この結果は新卒者の外科離れの一因を示していると思われる。2022年には外科専攻医採用者数が初めて減少し、日本外科学会は「外科医志望者の伸び悩みについての再考」としてメッセージを発表した。専門医資格取得までに要する修練期間・生涯労働期間の短さに対する懸念・ワークライフバランスの難しさ・外科医のインセンティブ・医療訴訟のリスク・女性医師のキャリア継続の難しさ・医学生・研修医への啓蒙不足など、喫緊の課題解決のために行っている取り組みを啓蒙・継続していくとしている。

“Diversity（多様性）”が求められる新たな時代において

は、外科・呼吸器外科の魅力をさらに高め、男女問わずキャリアを継続し輝き続けることのできる環境づくりが求められている。

### 呼吸器外科分野の特徴

呼吸器外科では、肺・縦隔・胸壁を中心とした、胸腔内に発生する疾患全般を対象に診療を行っている。手術は肺や縦隔のみならず、周囲の大血管や心臓、横隔膜、神経、椎体など胸腔内のあらゆる重要臓器を扱う必要があり、外科領域の中でも対象疾患や術式、アプローチも多岐にわたる。加えて、vital organを扱い肺動静脈の処理など大出血のリスクを孕む手術を行うため、専門性の高い技術や知識、全身管理が必要である。一方で、手術時間は平均3-4時間程度、緊急手術が非常に少なく、ワークライフバランスが調整しやすい分野であるといえる。実際、呼吸器外科を専攻する女性医師数は年々増加しており、当科でも私を含め2名の女性常勤医師が所属している。

### 医局の取り組み

当科では、性別問わず医局員がモチベーションを維持しながらキャリアを継続するための環境整備を行ってきた。呼吸器外科医育成を意識した診療を心掛け、最短での専門医・学位取得を念頭に若手医師の手術・症例経験数を集積、日々のカンファレンスなどを通じ全員でスキルアップする体制を整えている。緊張感の多い手術や診療現場の中でモチベーションを維持するためには、メリハリのある生活とQOL維持が重要であるため、カンファレンスを朝の時間帯に集約し17時以降のルーチンワークを廃止、土日は完全オンコール体制としている。そして、最大の課題であるマンパワーの確保のため、臨床実習や学会発表指導、ティシューラボトレーニング等を通じて医学生や研修医に向けて呼吸器外科の啓蒙活動も行っている。

### 学会の取り組み

近年の働き方改革の推進に係る議論を踏まえ、2021年5月の法令改正により臨床工学技士の新たな業務範囲が追加された。外科領域では、鏡視下手術における内視鏡用ビデオカメラの保持・視野確保操作のタスクシェアを導入する施設が増え、学会でも多く議論されている。また、胸腔ドレーン管理や創傷管理、疼痛管理などの周術期管理に対応可能な診療看護師も年々増加している。このような他職種とのタスクシェアにより、外科医の業務効率化が期待される。

診療現場の最前線に立っている若手医師の活性化も重要なポイントである。卒後15年以下の若手外科医師の人材育成を目的として、心臓・呼吸器・食道の3領域が所属する日本胸部外科学会では、2021年に若手医師を中心としたJATS-NEXTを設立し、人材育成プロジェクトの企画立案や若手医師の意見集約を行っている。また、日本呼吸器外科学会においても若手教育部会としてJACS-NEXTを設立し、若手呼吸器外科医の教育・啓発・交流を活発に支援している。

### おわりに

働き方改革を見据えた外科・呼吸器外科分野の現状と医局や学会の取り組みについて述べた。働き方改革の実践が、労働環境改善のみならず医局や外科・呼吸器外科分野のさらなる発展に繋がる事を期待する。

**Conflicts of interest** : 本稿作成に当たり、開示すべき conflict of interest (COI) は存在しない。

### 文 献

- 1) 深見佳代. 女性医師の活躍を阻むものはなにか. 日労研誌 2020; 722: 43-51.
- 2) 男女共同参画に関する調査(グループ・インタビュー調査・アンケート調査). 東邦大学男女共同参画推進室, 2012年3月.